富士山の火山活動解説資料（平成 31 年２月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１）

萩原監視カメラ（富士山山頂の東南東約 18km）による観測では、噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図２、図３）

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていません。

・地殻変動の状況（図４、図５）

GNSS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

図１　富士山　山頂部の状況（２月 22 日　萩原監視カメラによる）

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。
次回の火山活動解説資料（平成 31 年３月分）は平成 31 年４月８日に発表する予定です。
この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所、公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50ｍメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

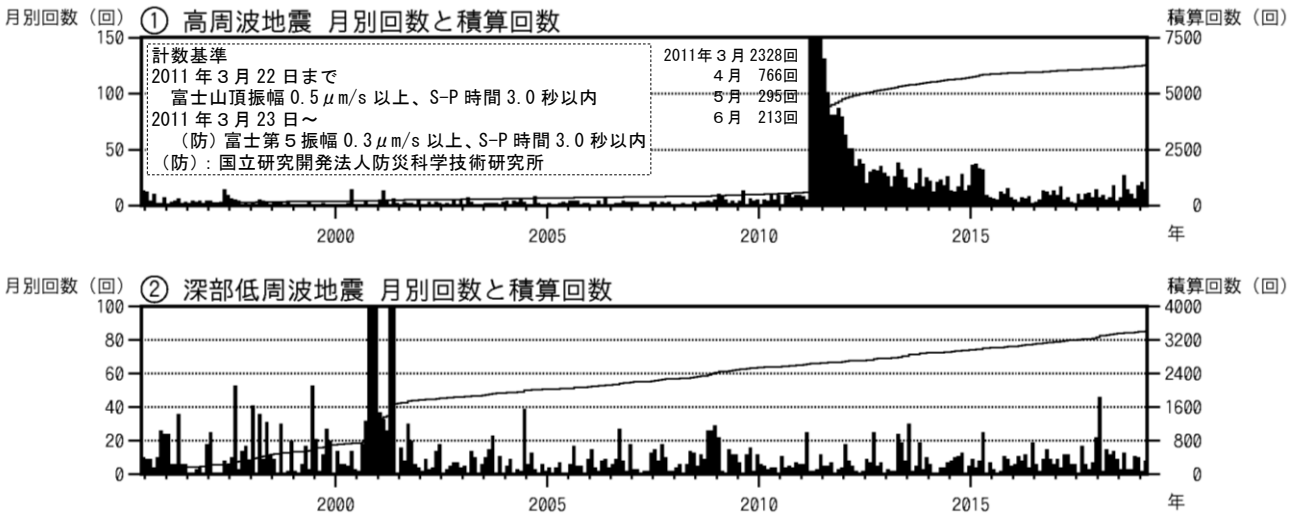


図２　富士山　月別地震回数（1995 年６月１日～2019 年２月 28 日）

・2011 年３月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したM6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていましたが、2016 年以降、発生前の状況には戻っていないものの、低調に経過しています。

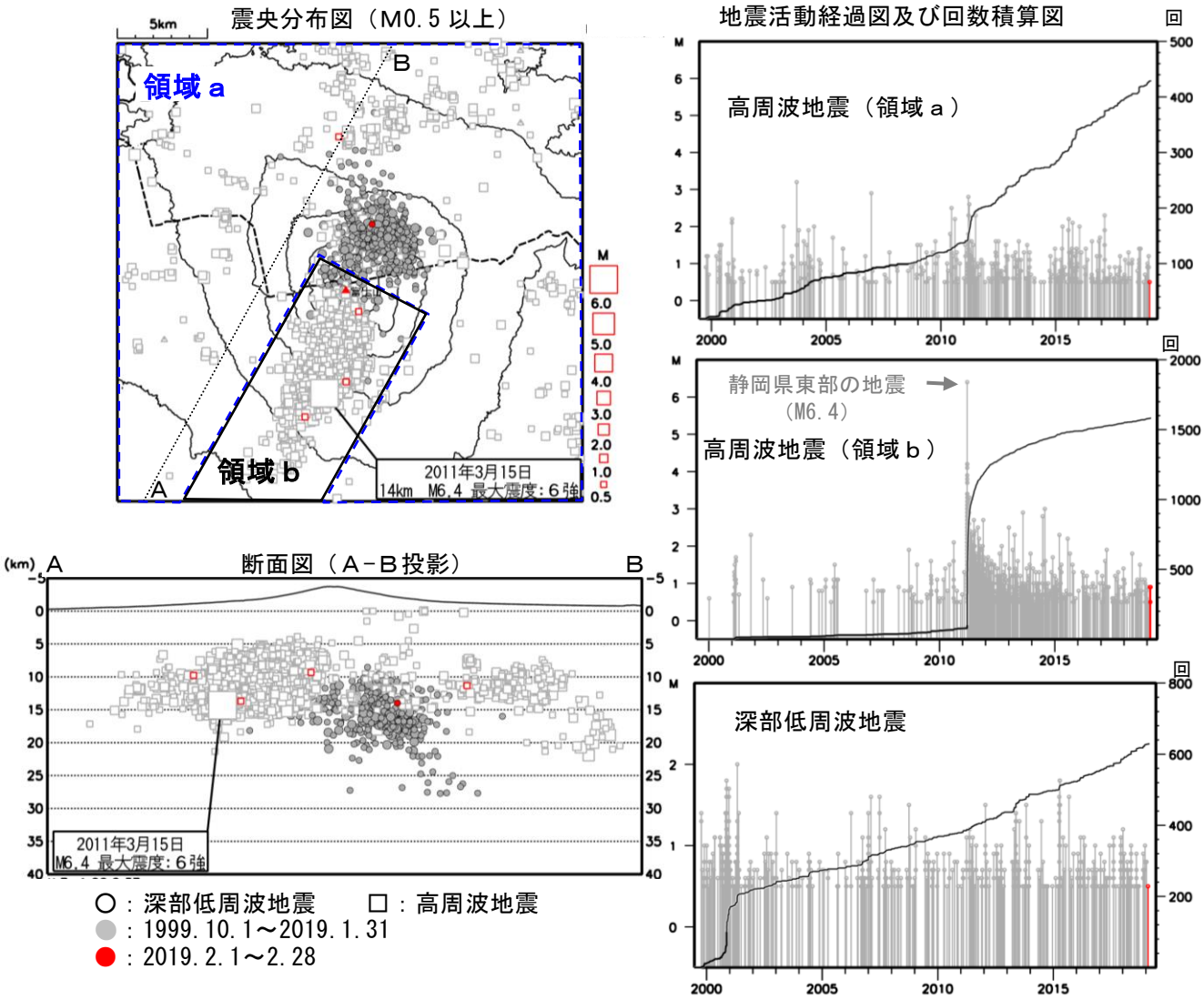


図３　富士山　広域地震観測網による山体及び周辺の地震活動（1999 年 10 月１日～2019 年２月 28 日）

・火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

Ｍ（マグニチュード）は地震の規模を表します。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

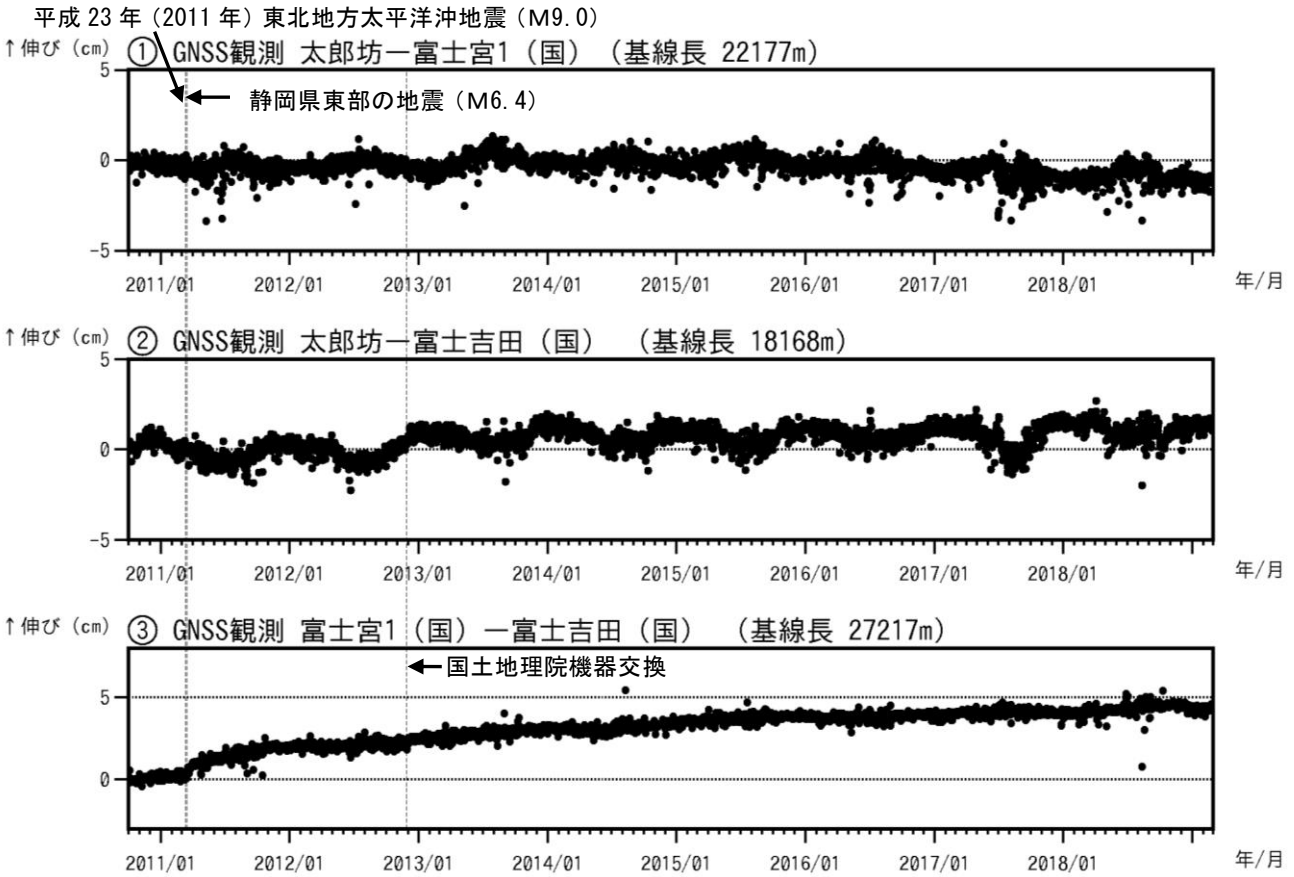
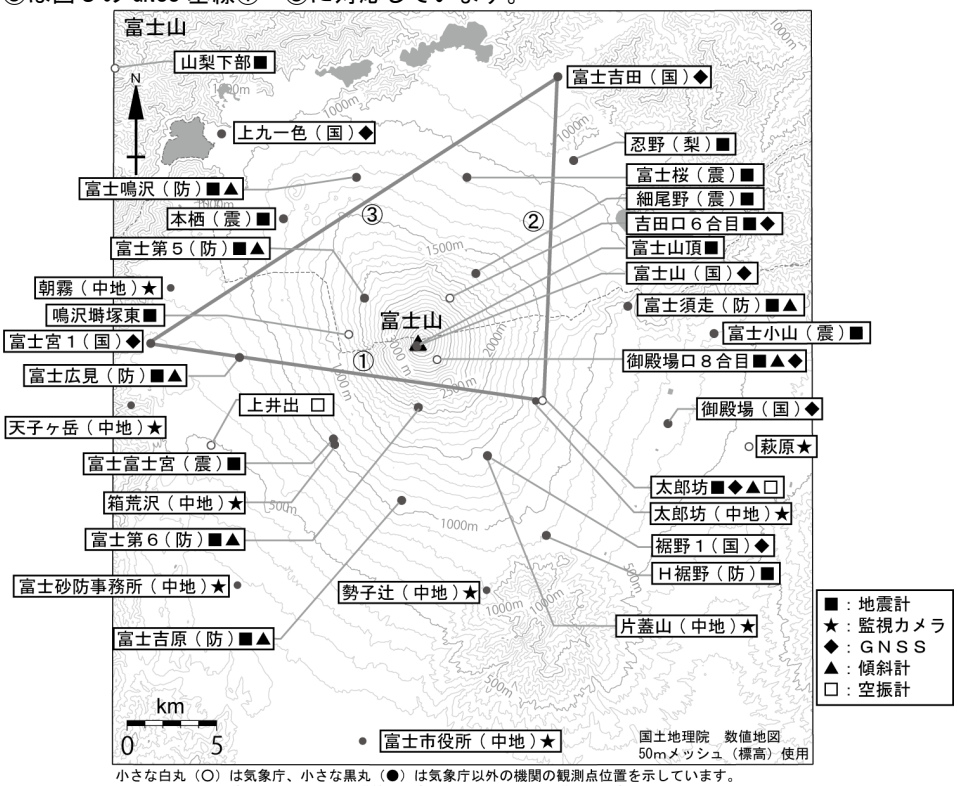


図４　富士山　GNSS 連続観測による基線長変化（2010 年 10 月１日～2019 年２月 28 日）

（国）：国土地理院

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」及び 2011 年３月 15 日に発生した静岡県東部の地震（M6.4）によるステップ状の変化を補正しています。

①～③は図５の GNSS 基線①～③に対応しています。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（震）：東京大学地震研究所、
（中地）：中部地方整備局、（梨）：山梨県

図５　富士山　観測点配置図

GNSS 基線①～③は図４の①～③に対応しています。